

平成27年第4回市議会の質疑概要

【文教委員会】平成27年12月10日（木）

<一般>

■ 渕上 猛志 委員（ソレイユ堺）「市民の読書環境について」

質問：図書サービスコーナーの年間利用人数の見込みの根拠は何か。

答弁：堺東駅の1日平均の乗降客数とほぼ同数の乗降客数がある、新浦安駅のマーレ図書サービスコーナーの年間利用人数約10万人であることから、同数を見込んでいる。

質問：10万人という数はすぐには無理であると考えている。浦安市は市民一人当たりの年間貸出冊数は本市の約2倍で、図書館のほとんどが徒歩10分圏内にあるという図書に触れやすい環境であり、本市とは図書にかかる環境・文化があまりにも違っている。
本市図書館の資料費、蔵書冊数、司書職員数はどうか。

答弁：平成27年度予算の資料費は、オンラインデータベースの使用料等を含め、1億159万円、26年度末の蔵書冊数は195万6,088点、平成27年度の常勤の司書職員数は57人である。

質問：いずれの数も市民一人当たりでみると浦安市とでは図書を支える環境が大きく違う。
本市の本と触れ合う環境づくりための取り組みはどうか。

答弁：中央図書館、区域館、分館、移動図書館での資料の貸出、ICTを活用した非来館者サービスの電子書籍の貸出、学校や地域・家庭文庫を初め、各種団体への団体貸出、また本や読書に親しんでもらうための各種催しの実施などに取り組んでいる。

質問：図書館サービスを充実させるために必要なものは何か。

答弁：市民の多様なニーズに応えるため、書籍や雑誌などの紙媒体とともに、電子書籍など電子媒体により提供する資料・情報の充実、また市民の求める資料を的確に提供するため、専門的職員による調査・相談機能の強化が必要であると考えている。

質問：市民の読書環境という意味では、学校の図書環境も非常に重要であるが、学校の図書環境の人的な課題は何か。

答弁：7小・中学校に学校図書館職員を、その他の小・中学校には学校図書館サポーターを配置しており、学校図書館サポーターの配置回数は週当たり2.5回となっている。（学校企画課長）

質問：図書館職員あるいは図書館サポーターは図書を支えるスタッフであるが、量の面から見ても、心もとない。そもそも図書館の使命を果たすため、必要なものは何か。

答弁：市民の多様なニーズに応え、暮らしに役立つ図書館として、さまざまな図書館サービスを行うため、必要な資料を収集・整理・保存し、的確に探し出して、市民に提供するためには、市民の課題解決に必要な資料・情報を水先案内する能力を持つ専門的職員である司書の役割が重要である。

要望：人的に充実すればもっと本に触れる取り組みができる。ハードの整備も重要であるが、ソフトの整備も重要であり、特に司書やその補助職の充実をお願いしたい。